

扇動

山口大学 しまふくろう

まるで 16 世紀のシェイクスピア劇を観ているようだ。

2021 年 1 月 6 日午後。トランプ大統領（当時）の支持者が、ホワイトハウス近くの集会でなされた大統領演説後、連邦議会議事堂に突入したニュース映像である。発展途上国ならまだしも、これが世界をリードする民主国家で起きているとは信じがたい。

群衆は旗を振り回し、奇声をあげながら議事堂の壁をよじ登り、窓ガラスを打ち破り、議会内にまさしく突入した。一部の輩は下院議長の執務室に乱入し、デスクの上に足をのせ、記念写真まで撮っている。ちょうどこの日は、全州の大統領選挙結果が上下両院によって承認される予定の日だった。議長に係員が何か報告し、議事は中断、議員たちはガスマスクを手に椅子や柱の後ろに身を屈めて避難、まさしくパニックになった国家の心臓部の映像が繰り返し流れた。

これらの映像と合わせ、突入直前の集会でトランプ氏が群衆に向かって演説する映像も流れた。「親愛なる支持者の皆さん。バイデン氏勝利は不正があったからであり、不正があったと分かった時は、違うルールで行うことが許される。非合法な大統領が生まれようとしているが、これは決して許されない！ ……」

その後、扇動された人々が議事堂へ向かったのである。

この事態は多くのことをぼくたちに知らしめ

た。アメリカの統治は「人ではなく法」に基づいていて、健全なる憲法があるからアメリカの民主主義は機能している、と信じられていた。しかし、トランプ氏の一連の行動はその虚構を破壊し、事実を白日のもとに晒した。憲法は紙に書かれた単なる国民の約束事であり、それ自体はその気になればどのようにでも書き換えられ、解釈されうること。そして、アメリカの民主主義は幸運と国民の良識によって、常にしかるべき人物を大統領の座に就けてきたからだ、ということ。

群衆扇動の最高傑作、それは「悲劇の時代」の始まりを告げるシェイクスピア第 1 作「ジュリアス・シーザー」である。第 3 幕第 1 場で、シーザーがローマ議事堂前でブルータスやキャシアスに「ブルータス、お前もか？」「ぜひもないぞ、シーザー。」、と言って刺殺されたあとの第 2 場で展開される。人間観察研究者シェイクスピアによって描かれた、「扇動」というものの人間心理発生メカニズムの迫真性は恐ろしいほどである。

歴史上のシーザー暗殺は紀元前 44 年 3 月 15 日 (*Idus Martiae*) 午前 10 時前に起きた。シーザーがパルティア遠征へ出発する直前の重要な元老院会議が開会されようとしていた時である。実行部隊は 14 人であった。1 人に対し狂乱状態の 14 人が刺しまくった結果、カエサルが受けた傷は全部で 23 箇所。そのうち、胸に受けた 2 刃目だけが致命傷であったという。55 歳であった。4 ヶ月後、ローマの夏の夜空いっぱい大きな彗星が現れ消えた。後年の研究で「ハレー彗星」とされている。

第2場はブルータスの群衆に向けたシーザー暗殺の決起理由が語られる。「刺したのはシーザーを愛する心が薄かったからではない、ただローマを愛する心のより深かったがためである。皇帝位を望む野心家シーザーを知ったときに、仆さざるをえなかったのだ・・・」、と主張した。

その演説のあとマーク・アントニーがシーザーの遺骸を擁して登場

アントニーは、群衆にシーザーへの弔辞を許してくれた“人格高潔な”ブルータスにまず感謝の意を表する。そして続ける；

「シーザーは私の友人、しかも公正誠実の友人でした。もっともブルータス君は彼が野望家だったと言われる。而してそのブルータス君は人格高潔の士であります。かつてシーザーは夥しい俘虜をローマへ連れ帰りました。そしてその身代金はすべて国庫に収められたのです。窮民たちが泣き叫んだとき、シーザーはともに泣きました。また、3度まで私が王冠を捧げましたのに、彼は3度ともこれを拒みました。これが野心でしょうか？が、ブルータス君は彼が野心家だったと言われる。而してそのブルータス君はたしかに人格高潔の士であります。ブルータス君に対する反駁の意味で言っているのではない、ただ私の知っていることを述べるためだけに、ここにいるのです。諸君もかつてシーザーを愛した。それが今なぜ彼を悼むことを躊躇されるのですか？・・・」。

そう述べて、アントニーはシーザーの棺へと向かった

(群衆の中に動揺が起き始める)

棺から戻ってきたアントニーは群衆に向かって、シーザーの印のある遺言状の存在を示唆する。そして、読み上げるつもりはないと言いながら、「もし平民たちがこの遺言状を聞けば、亡きシーザーの傷口に駆け寄り、接吻とともに、云々」と、たたみかける。こうなると群衆はたまらない。



(イラスト：司馬さやか)

「その遺言を聞こうじゃないか。アントニー読んでくれ。遺言状、遺言状だ！」

アントニーは言う；

「市民諸君、待ってもらいたい。読んでではならんのです。シーザーのこの遺言を聞けば、人間たる諸君は興奮して狂気のようなになるでしょう。諸君にこんな話をしたのは、私としては行き過ぎだった。白刃を揮ってシーザーを刺したあの高潔の士たちを私は誣めることになるのではないか、それを惧れるのです。」

こうなると群衆はもう止まらない。「奴らこそ叛逆人！ なにが人格高潔な士だ！」

そのあとアントニーは遺言状を読み、と言う声に応え、群衆にシーザーの遺骸の周りに輪になるようにいい、ブルータスやキャシアスが刺した傷口をひとつずつ指し示し、生々しく説明しだした

「おお、なんという痛ましい姿！ ああ、叛逆人、悪党奴らが！ 復讐だッ！ 火をつけるッ！ 殺せ！ 1人たりとも生かすな！」

それを見て、アントニーはささやく；

「さてさて、あとは勢い。復讐の鬼め、腰を上げたな。どこへ行こうと貴様の気まかせ。」

その後、召使いによってブルータスさま、キャシアスさまは狂人のように馬で城門から立ち退かれた、との知らせをアントニーは聞くのである。

化学反応にも同じようなメカニズムがある。落ち葉と芋を混ぜておいても特別なことは何も起きない。焼き芋を作るにはマッチを擦る必要がある。落ち葉（群衆）が燃焼（酸化：行動）するためには、火花（扇動）が必要である。すなわち、活性化エネルギーである。化学反応においては、活性化エネルギーは反応物を遷移状態種と呼ばれる不安定な分子形態に変えるのに必要なエネルギーと定義されている。アントニーやヒトラーなどの「扇動家」は、この群集心理というものを熟知している。この心理は甘美で避け難い魔力を持っているように見える。ぼくも一度だけ、危うくさらわれそうになった経験がある。

専門 5 年生のころだったと思う。理由はよく分からないが、当時何かと話題だった「〇〇会」会長が、大学の旧階段教室に来て、ぼくたち学生に向かって語り出した。大学の当時の麻酔科教授を賞賛し、会いたかったが会えなかったこと、自分が離島の貧しい暮らしの中から、満身に治療も受けられない病んだ人々を救うため、夜も寝ずに勉強し阪大医学部に入学したこと、そして今回 24 時間体制で救急患者を受け入れる病院を全国に開設しようとしていること、などと話はだんだんと熱を帯び、叫ぶような、当時はやっていたアジのような演説に変わって行った。ぼくは告白するのだが、半分以上心奪われ、「さらに話を聞きたい人は、養老の滝(だったか?)に集まれ。そこでビールでも飲んで語りあかそうじゃないか！」との言葉に誘われ、店について行った。10 数名ぐらいの学生が来ていたと思う。酒も入り、話も盛り上がり、会長はワイシャツの袖をまくりあげ、さらに話は大風呂敷を広げたようになった。ぼくは小さい時からこのような“島人”^{しまんちゅ}の大人を何人も見てきたので、少し懐かしみを覚えた。

話はますます盛り上がり、そのうち「いつかぼくは首相になり、……！」と会長が言い出し



(イラスト：司馬さやか)

始めた頃から、ぼくの酔いが覚めてきた。隠された野心が見えたのである。トイレに立ち、そのまま帰って寝た。

「扇動」。これに身を任せるのはとても心地いいものである。避けがたい「魔力」がある。扇動家はそれを熟知している。ナチズムや戦前昭和の日本はその典型である。この魔力を避けるにはどうしたらいいのか？

ぼくが思うに、いくら心奪われても、その時には判断しない。一晩寝て、明るく朝冷静に考える。「隠された意図はないのか？」それでもなお感動していたら、その時受け入れたらいいと思う。

参考資料：

1. 「ジュリアス・シーザー」
シェイクスピア 岩波文庫
2. 「ローマ人の物語 IV&V」
ユリウス・カエサル 塩野七生 新潮社
3. 「トランプは終わらない」
Newsweek 日本版 2021 年 1 月 19 日号
4. 「独ソ戦 絶滅戦争の惨禍」
大木 毅 岩波新書
5. 映像の世紀 (4) 「ヒトラーの野望～人々はナチスに未来を託した～」 NHKBS プレミアム
6. 「戦争というもの」 半藤一利 PHP
7. 「サピエンス全史」 上下巻
ユヴァル・ノア・ハラリ 河出書房新社

続編「ごちそうさま」
—昭和元禄から平成を経て令和の飽食時代編—

徳山 望月 一徳

昭和の終わりから平成の始まりは、バブル時代です。物があふれお金さえ出せば、欲しいものはなんでも手に入りました。我々は、飽食時代に突入しました。

登場する食べ物は、①たこ梅のおでん②くじらのコロ③大阪の焼き鳥④まて貝のぬた⑤鯛の刺身⑥有名店のふぐ料理⑦キノコ類（松茸ほか）⑧湯豆腐⑨孤食の独り鍋⑩安物のマグロ⑪土鍋の雑炊⑫保存食のデビラとスルメなど。



昭和44年に結婚してから、週刊誌や雑誌で知った旨いもののお有名店を手帳に書き留めました。学会に出かけたとき立ち寄り、旨ければ後日、家内を同伴するためです。旨いものを食べなければ、旨いものは作れません。

大阪で有名なおでん屋は、“たこ梅”です。看板商品が、鯨のさえずり（舌）です。作家の吉村昭さんもわざわざ立ち寄った名店です。

彼のエッセイによると、初めての店で看板メニューをいきなり頼むと、マナーを知らない奴だと思われるので（これは作家の山口瞳さんもエッセイに書いています。寿司屋で偶然、三島由紀夫*¹に出会いマグロのトロばかり注文するのを見て、「あとの客のことも考えて食べる！」と言ってやりかった。我々も気をつけましょう。）、ひと通り食べておいて愈々、鯨のさえずりを注文したが噂どおりの旨さであった、とあります。

これには秘訣があって、大阪のおでんにはくじらのコロ（脂身）が入っているので、こくのある出汁がでます。それで一段と旨くなります。

その後、コロは、熊野詣に出かけた折に入手し

て当分の間おでんに入れて楽しみました。よい出汁もでるし、コロ自身も旨い。

大阪の話が出たついでに焼き鳥について—

昭和43年末から44年春にかけて3カ月間、大阪医科大学麻酔科（兵頭正義教授）にペインクリニックの研修に行きました。

この間、山口市出身の学生さん（といっても私より年長）に大阪北区の焼き鳥屋に連れて行ってもらいました。夫婦とその息子で経営する小さな店でしたが、実に旨かった。その後に家内を連れて2日続けて通ったほどです。

名古屋にも旨い焼き鳥屋があります。無口なおやじがもくもくと焼き鳥を焼いておりました。彼の地は、名古屋コーチンで有名です。ここも家内を連れて再訪しました。

焼き鳥の旨さの条件は、①まず材料の鶏が、名のある品種で自然の状態で飼育されていること（地べたで飼われて、運動量が豊富）②炭火で焼くこと③店のおやじが、無口であること（焼き鳥から目を離さない）。

焼き鳥なら、なにも大阪まで行かずとも、山口県の長門が有名です。長門は、漁師町でもあり漁のために、船上での生活が長く続くと陸に上がって一番食べたいものが、肉系なので焼き鳥屋が多いと聞きました。

長門では、鯨をご馳走になったことはありますが、焼き鳥はありません。地元の人の評判を聞きたいものです。

酒の肴と言えば、肉もありますが、まず魚介類ですね。日本酒に合うのは何ととっても刺身や和え物です。それが、残念なことに近年この魚介類が、少なくなりました。

突然ですが、さて貝はどうでしょうか？

私が、子供の頃(昭和20年代)は広島県(竹原市、広島市)では、たびたび食膳に上りました。大人になって懐かしいので、さて貝のぬたを食べたいと思っても手に入りません。似たような貝は、見たことはありますが、似て非なるものばかりです。日本中の海岸の埋め立てで、絶滅したと思われます。幻の味になりました。

刺身の筆頭は、まず鯛でしょう、腐っても鯛と言うくらいですから・。

家内が、今日は鯛があったからといって食膳に上りますが、すべて養殖物です。まず歯触りが悪い。ぐにゃつとして噛みごたえがない。味に深みがない。

家内が、私の不満を聞きながら、

「お店では、天然と言ったけどね?!」

昭和 50 年代の初め、上の関の四代の漁港から釣り船が出て鯛釣りをしたのですが、素人でも船頭のおかげで、鯛がよく釣れました。天然鯛を食べたのは、これが最後でしょう。

世に養殖の出初めた頃は、養殖物は旨くないとの世間の声を聞いて、養殖業者が、腹立ちまぎれに、「米も養殖じゃろうがい!」と、言ったのを聞きましたが、その後魚の養殖は、どんどん広まり世を席卷するに至りました。

マグロの養殖は近大マグロが有名ですが、ふぐも養殖が盛んです。驚いたことにふぐは、山中の塩分を含んだ温泉水で育てる時代になりました(日経・平成 26 年)。

「陸上養殖で育てた魚は工業製品じゃ!」と、社長が雄叫びをあげたそうですから、養殖が世間から受け入れられて得意になっている様子が窺えます。近年は養殖ビジネスの月刊誌もあり、本気で骨なし魚(食べやすいから)をつくる気らしい。やめてくれ!!

ふぐは、昭和 40、50 年代頃までは、わざわざ天然と言わなくても天然物が、供されました。その頃、下関の講演後の慰労会では春帆楼で、昭和 54 ~ 57 年頃の九州厚生年金病院の医局の忘年会では、門司の専門店天然のふぐを食べる機会がありました。医局の若い人(高知県出身)が生まれて初めて食べて、感に耐えぬ思いを込めて、

「旨いですねー」の一言を忘れません。

「全く、ふぐは旨いからのう!無理もないぜよ!」

と、言ってやりました。

徳山医師会の講演後の会食のご相伴にあずかり、天然物を戴いたのが最後です。平成 7 年の阪神淡路大震災直後のことでした。

魚の養殖ぐらいで驚いている場合にはありません。肉も養殖する、と言っても牛、豚、鶏の細胞を培養液に漬けて増殖させ、これを成形したものを培養肉といい、将来の食糧危機や地球規模の課題—大量の穀物や水、牧草地、メタンなど温室効果ガスを含む尿やゲップなどを克服する切り札としての期待もあり、巨大産業に発展する可能性を秘めている、と毎日新聞の報道です(令和元年 11 月 29 日)。

しかし、市場に出廻るまでは、多くの課題があり味やコストの面で、実用化にはほど遠いのは、幸いです。これ以上、不味い養殖物を食べたくはありませんから・。

魚にしても野菜にしても人工栽培の一番の欠点は、天然物と比べて味が格段に落ちることで、キノコ類も手に入るものは、すべてが人工栽培です。

椎茸、舞茸、えのき、えりんぎなどは容易に手に入るようになったものの、まず椎茸(生のバター焼きは旨い)とえりんぎ(食感がマツタケに似ている)は食に耐えます。

しかし舞茸は、キノコ狩りで見つけた人が踊って喜ぶことからその名がついたそうですが、栽培物はとても踊りたくならないようなお味ではありません。

キノコ類は、総じて豊富な食物繊維が大腸癌予防に役立つと思って食べておりますよ。

キノコと言えば、松茸が王様であることは、論を待ちません。

母親の実家(広島県の山陽道の河内インター附近)は、昭和 30 年代までは松茸の産地でしたが、車社会になり排気ガスが松の木を枯らし、山の手入れをしなくなったために、まったく採れなくなりました。

店先で、値段を見ると 1 本 1 万円もします。そこまで高い値段を出して食べるほどのこともな

いと、諦めております。勿論、貰えば食べますけど・。

松茸だけは人工栽培が不可能な神の領域であり、どんな科学者も侵すことが出来ません。誠に幸いと言うべきでしょう。

寒いときには鍋が一番です。簡単で旨いのは、湯豆腐につきます。旨い条件は、よい出汁とよい豆腐ですが、近年よい豆腐にあたりません。

安いから高いのまで沢山ありますが、一番高いのが旨いかと言うとそうでもありません。家内に頼まれて、適当なのを買って不味いという、「安いを買うからよ！」

と、言われて、一番高いのを買ってみるとやたらと硬いのです。

大型店舗では、なかなかいい豆腐に巡り合いません。小泉改革（アメリカの言うなり）で、昭和時代に見かけたこの道一筋の個人商店がなくなったのは、返すがへすも惜しいことです。

私がお勧めする鍋は、留守番で孤食のときに実力を発揮します。鍋は、小さい土鍋です。熱源は、電気コンロで充分です。

材料の主役はマグロ（安いものがよい。トロはいけません。）です。豆腐と椎茸は、必須です。あとは野菜類で、特に大根があればなおよい。

以上の材料を一度に入れると寄せ鍋ですが、一度に入れません。うどん汁と同じ濃度の出汁を張ります。大根のそぎ切りを入れておきます（最後に役に立ちます）。煮たところで椎茸を入れ（椎茸のエキスが出る）、ポン酢で食べます。

ここでマグロをシャブシャブして食べます。マグロからエキスがでたところで、豆腐を投入しぐらっとしたら食べごろです。

これを繰り返すと出汁が一段と濃くなり、旨みが増します。野菜を適時入れます。水菜でもほうれん草でもなんでもよい。

コツは、寄せ鍋のように一度にすべてを投入しないことです。野菜が露地物なら言うことなし。この頃の大店舗の野菜からは、野菜それぞれの持つ個性がなくなりました。贅沢を言うようですが、旨味がなくなりました。

全部食べ終わったら、ご飯を投入し生卵を掻き

入れ少量の味噌を入れて雑炊にします。初めに入れた大根が、雑炊の具になります。

この鍋を食べたら、留守番の孤食も悪くないと思われまよ。

なんとって、「もうお酒は、そのくらいにしたら・」と、言う人がいなんですからどんどん進みます。体に気をつけてください。

最後に、何も無い時の酒の“つまみ”に、干物を用意します。テビラとスルメを予め焼いて、デビラは骨を外して身を取り、スルメは細切りにして丼に入れ、醤油を適当に振りかけておきます。

これを保存しておき、食前酒の当てにしたり、食中の箸休めにします。保存中は、猫が狙うので注意してください。

デビラもスルメも当たり外れがありますが、食べているうちにどのくらいの大きさで、どんな種類のもがよいか判るようになりました。最近は、よい品物に当たりません。

こうして戦中戦後（前編）*²から現在を振り返ってみると、旨かったと強く記憶に残っているのは、戦中戦後の食糧事情の悪い時に食べた物です。

その後、試しに食べてみると意外と旨さを感じなくて、これが同じものかと思いますが、飽食時代となった今では、感に耐える食べ物には、出会いません。

食べるものがなくて何でも旨かった飢餓時代と、なんでも手に入るが、そんなに食べ物に感激しない現在の飽食時代と、どっちが幸せでしょうか？

戦中戦後の飢餓時代は二度とご免だが、飽食時代の現代は、何を食べても感激というものはありませんが（年のせいもある）、感謝の一言に尽きます。

ーとは言うものの養殖の不味いものは食いたくないな！

不遜な物言いになりますが、食べたいものは何でも手に入るが、あれもこれも人工栽培という時代が続くと味覚音痴人間が、日本中にあふれて“美味求真”を語らなくなり、生産者も張りを失うで

しょう。

もっともグローバル人間を育てたい政府の方針としては、世界に進出するには味覚音痴人間が大いに役に立ちます。イギリスがよい例です。

ところで、最近の TV でのバカ食い（一度に何キロも食べる）や激辛食いなど食べ物で遊ぶのはやめてもらいたい。

バカ食いを企画した人、やっている人、それを見ている人（私を含めて）は、きっと罰が当たります。

令和 3 年 9 月 27 日 月曜日

追記（* 1）三島由紀夫氏の名誉のために一言申し添えます。

昭和 26 年創業の「どん底」という居酒屋は、新宿 3 丁目にあり脚本家や俳優ら舞台関係者のたまり場であった。あまり酒を嗜まない三島がもっぱら注文していたのが、ナポリタンだった（正論 2021 年 4 月号「文人論客 壺中の天」VoL42 取材・文 将口泰浩より）。

ナポリタンと言えば百貨店の食堂で子供が一番好むメニューです。酒好きで食にうるさい大人は、食べませんね。ケチャップが好きなのは、日本の子供とアメリカ人です。

三島氏は、酒を飲まない人であり、本人も「美味い不味いは全然わからないし、ご馳走も粗食も同じにしか感じられない」と述べ、食に関する記述はほとんど書き残していない、と先の取材にあります。

三島氏がトロばかり食べていたのは、人が思うほど格別旨いという味覚を持たず、旨いトロを独占しているという自覚もなかったと推察します。三島氏は、山口瞳さんの理解を超えた人だったようです。

「天は二物を与えず」は、天才三島氏も例外ではありません。

* 2 本会報令和 3 年 8 月号「緑陰随筆」520～522 頁



サイコ (アナリシス)

下関市 塩見 祐一

本作品は1960年アルフレッド・ヒッチコック監督のサイコスリラーの古典的映画だ。主演はアンソニー・パーキンスで、先日亡くなった同年代のジャン・ポール・ベルモンドと外見上正反対で、そうかと言って、一昔前のハンサムと言えはのアラン・ドロンとも違ってはいた。あの時代でアアいった雰囲気と風貌だからこそその俳優さんだった。

次の副題『サイコアナリシス』はジークムント・フロイトが開祖の『精神分析』である。本治療は「無意識」の患者さんから発せられる「自由連想」を解析する精神療法だ。フロイトはそこに至るまでに Charcot-Marie-Tooth 病等で有名なシャルコーの催眠療法（マジックショーか？）から脱却し、彼の代表作『夢判断』（新訳、大平 健）で『精神分析』の学説を確立する。つまり、当時としては画期的な手法～無意識と同じ状態での夢を患者さんに語らせ、ソノ内容を物語風に解釈した。後年エッセイ『フロイト、夢について語る』（訳、中山 元）で再度 follow している。

ここに日本語の「夢」は英語で「dream」である。その「夢」を国語辞典でひくと①眠っている間に種々感じる事象、②将来実現させたい希望・理想とあり、「dream」も英和辞典で①（眠っているとき見る）夢、②（実現したいと思っている）夢とある。

しかしながら、近年“夢”の研究も進んできて、アリス・ロブ著『夢の正体』によれば、フロイトはその啓蒙者とされる。僕としては夢のないホブリン&マッカレーの「活性化合成理論」が一番納得できる。すなわち、90分毎のレム睡眠を繰り返す際に様々な神経伝達物質が働く（アセチルコリン→感情中枢を刺激、セロトニン&ノルアドレナリンの減少→理性・記憶中枢を抑制）のだ。

5年前に春日武彦著『鬱屈精神科医、占いにすがる』を読んで以来、“占い”のうちでも“相占”、

そのまた一つである“夢占い”、そしてソレを一步進めた“夢そのもの”につき勉強してきた。よって、本投稿を機会に自家製下図（“縦軸”：「快・不快感」、 “横軸”：♪「現在・過去・未来」）と照らし合わせながら僕なりの極論による『夢分類』を書いてみる。

○A領域

①昼間に見る夢は、小学校の卒業の時に書かされた「将来の夢」やタイムカプセルに入れる「未来の私へ」なんかが当てはまる。

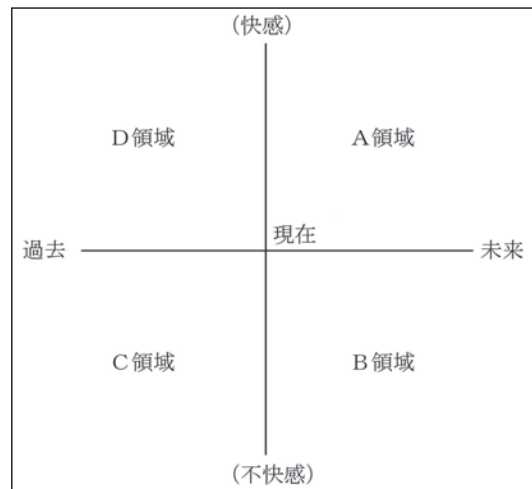
②僕にはテンデ縁がなかった、思い焦がれていると会いたさ・見たさ！で夢にまでみる恋心。この例としては『古今和歌集』で小野小町が詠んだ次の三首がある。

「思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを」

「うたた寝に恋しき人を見てしより夢てふものは頼みそめてき」

「いとせめて恋しき時はむばたまの夜の衣を返してぞ着る」

③もっと庶民的な落語の「夢噺」で有名なのは『芝浜』だが、それは実際に五拾両を拾ったのに女房



図

に夢だと騙されたんだからチョット違う。対して『夢の酒』は若旦那がうたたねをして美人のご新造さんとお酒をサシツササレツの後いよいよ床へというところで若妻に起こされる。夢の中で起きたイイ話なのに、結果は派手な夫婦喧嘩になってしまう。

○B領域

①最近では、コロナワクチンの第1回目接種の夜に見た。誤って青酸カリを飲んでしまい、必死にオエッと吐こうとして目が覚める。僕には“逆流性食道炎”があり、飲食物 or ストレスかで胃液が食道にあふれ更にはノドにまで達し、その知覚がそのような夢を誘うと考えた。

②それと同様、僕はそろそろ or とっくに“前立腺肥大”のオ年になっている。だから、明け方近くになると膀胱が満タンとなり、トイレ探しへの夢に導くのだ。生理的には、遙か昔にあった思春期男子特有の“夢精”も同じ類だ。

③以前、差し歯の調子が悪かった時に「歯が抜ける」夢をよく見た。治療してからは無い。フロイトによれば、これは去勢と関連すると言う。そうでなくとも、いずれ老化現象としてなるのにね。フロイトの思考にセックスへのコジツケが多々見受けられるのは義妹（フロイト崇拜派は義姉 or 避けて通る）同居等の煩悩環境下が影響していると思われる。

○C領域

①当たるも八卦なのか、“夢占い”では試験の夢を見ると真逆の「合格する」or「落ちる」なる“お告げ”がある。フロイトにとってのソレはパスしている科目の夢を見たんだと。僕にとっての試験の夢は当日まで試験範囲の準備が全く出来ていなくウナサレル奴だ。学校を無視して白紙答案を出したりした罰なら仕方がない。

②僕が沖縄 Y 村で仕事をしていた間、誰一人としてチビチリガマの悲しい処へ案内してくれなかった。こちらが先にお参りをすべきも、全く知らなかったんだから。それが、内地へ帰った後に波平^{はんじや}在の反戦地主・Tさんが新聞記事に載って、初めて知った。それからである。アナグラで米兵に機

関銃を向けられ、「Help me！」と声を出そうにも出ないオッカナイ夢を見るようになったのは。

③小学5年次にクラスの男子全員に総スカンを食い、その2、3日前まで僕にヘイコラしていた連中が豹変し、授業が終わり教室から出るや否や校門→大通りへと追いかけてくる。石モチ追われる独裁者じゃあるまいし。「シオミー、待て〜！」と、今でも・夢の中でも。

○D領域

①小学校卒業の頃まで、家の前は石ころをバットでどんなに遠くへ打っても更にはるか向こうまで野っ原だった。それが朝起きての日課でもあった。そして夜は、ホントのボールが欲しい、欲しいの一念が夢の中で野原にココにも、アソコにも！とボールを在らしめたのだ。もう一つは、お金を拾う〜ただし交番へ届けてはいない〜夢。これは不本意な大学に入り何も夢を見つけれなくアルバイトに明け暮れていた時にヨク見た。

②フロイトは夢のテレ（tele = 遠くで）パシー（pathy = 感応する）能力に関しては否定的だ。小学6年次に大好きな祖母の「退院が今度の土曜日っていう夢を見た」と、その何日も前にドンピシャで言って母を驚かせたり、近年では大切な人の癌手術で採った所属リンパ節25個全部が転移フリーだった夢を主治医の説明前日に見た。これなんかテレパシーというより正夢なんだね。

③古来ことわざに「一富士、二鷹、三茄子」がある。これは夢にみると縁起が良いとされる順番の文句で、特に初夢に言われている。番外の四として葬式も挙げられるが、池田弥三郎によれば“逆夢”との解釈だ。

誰かが豊臣秀吉になりきって歌ったと思われる有名な辞世「露と落ち 露と消えぬるわが身かな 浪速のことは夢のまた夢」がある。果たしてこんな悠長な夢を彼の天下人が最晩年に見たはずがない。寝てはC領域に相当する信長の亡霊に怯え、覚めてはB領域の徳川家康に悩まされる無限・夢・地獄だったに違いない。

さてさて、今年の初夢はどんなのだろうか。

愛すること

徳山 中村 和行

眞子内親王は、小室 圭さんとの婚姻届けが正式に受理され、皇族を離れて小室眞子さんとなりました。その結婚記者会見では、圭さんは眞子さんを「愛しています」と語りました。

広辞苑で調べると、「愛する」とは、心がひきつけられ、慕い、いつくしみ、かわいがり、大切に思うとあります。アリストテレスは「愛というものは、愛されることよりも、むしろ愛することにある」、マザー・テレサは「もし本当に愛したいと願うなら、許すことを知らねばならない」（瀬戸内寂聴も同じように述べています）、ゲーテは「愛する人の欠点を愛することのできない者は、真に愛しているとは言えない」、永 六輔は「愛することの反対は、憎しみ合うことではありません。無関心になることです」、ニーチェは「男の幸せは『われ欲す』、女の幸せは『彼欲す』ということである」、サン＝テグジュペリは「愛はお互いを見つめ合うことではなく、ともに同じ方向を見つめることである」と述べています。

世界の言葉で「愛しています」は、英語ではアイラヴユー、フランス語ではジュ テーム、イタリア語ではティ アーモ、ポルトガル語ではエウチ アーモ、スペイン語ではテ キエロ、テ アーモ（メキシコ、ペルー、チリ、アルゼンチン）、テストィモ（カタロニア地方）、ギリシャ語ではサガポー、オランダ語ではイク ホウ ファン エ、チェコ語ではミルイ チェ、ロシア語ではヤー ティビャー リュブリュー、トルコ語ではセニ セヴィヨールム、ペルシャ語ではドウステッダラム、アルメニア語ではイエス ケズ シルメム、中国語ではウォー アイ ニー、韓国語ではサランヘヨ、アフリカーンス語ではエック イス リーフ フィー

ル ヨウ、スワヒリ語ではナクペンダ等々ですが、ベトナム語では男性用がアン イウ エム、女性用がエム イウ アン、タイ語でも男性用がポムラックン、女性用がチャンラックンと男性と女性と使い分けをするようです。他にも、コエコエ語（ナミビア）、アムハラ語（エチオピア）、ヘブライ語（イスラエル）、ヒンディー語（インド）、クメール語（カンボジア）では男性用と女性用の言葉でそれぞれの思いの丈を相手に伝えます。

筆者には、忘れることのできない「愛しています」が、ドイツ語のIch liebe dich（スイスではIch liebe dich）です。医学部医学科ではドイツ語やフランス語も必要だと聞いていましたし、ドイツ語は必修科目でしたので片言を話せるように勉強をしていました。医学進学課程の1年生の夏休み前のころに、人生で初めて思いの丈を伝えたことがあります。相手は広島で浪人時代に机を並べていた女子学生です。彼女は山口大学に入学していました。梅雨明けの休日、山口市の香山公園で瑠璃光寺の五重の塔を見て、山口県庁を過ぎたあたりから一の坂川の青々とした桜並木を下り、ゆっくりと二人で歩きながら「ドイツ語では“Ich liebe dich”と言います。僕は、卵の白身になりたい」と口走ってしまいました。卵の白身は黄身を守っています。僕は君を守りたい。私の勝手な思い込みでした。

古今東西、情歌は星の数ほどありますが、長州藩士の高杉晋作が作ったとされる都々逸の「三千世界の鴉を殺し、ぬしと朝寝がしてみたい」は花魁との情愛を感じさせます。彼の辞世の句は「面白きこともない世を面白く すみなすものは心なりけり」ですが、彼の信条を表しています。古典

落語の「二番煎じ」では、即興で都々逸を唄います。「ついておいでよこの提灯に 消して 苦労はさせぬから」、「あとがつくほど つねっておくれ 後でのろけの 種にする」、「はげ頭 抱いて寝てみりゃ 可愛いものよ どこが尻やら頭やら」等々。

都々逸は、江戸の末期に寄席芸人の初代都々逸坊扇歌（1804 年～ 1852 年）によって大成された口語による定型詩で、七・七・七・五の音数律に従うとあります（Wikipedia「都々逸」から引用）。都々逸の名は、扇歌が当時の上方で流行っていた「よしこの節」に「名古屋節」の合の手の「どどいつどどいつ」を取り入れたことによるという説が有力ですが、名古屋市熱田区の伝馬町には「都々逸発祥の地」の碑があります。元来、三味線とともに歌われる俗曲で、寄席や座敷で演じる出し物であったと記されています。調子のよさと唄いやすさで庶民に流行したようです。その作品を一つ一つ紹介する暇はないのですが、いくつかの作品を紹介します。

美人の定番は、「立てば芍薬 座れば牡丹
歩く姿は 百合の花」

恋がたきは、「人の恋路を 邪魔する奴は 馬
に蹴られて 死んじまえ」

山口市の一の坂川では、「恋に焦がれて 鳴く
蟬よりも 鳴かぬ蛩が 身を焦がす」

井伊直弼の茶湯一会集から、「逢うて別れて
別れて逢うて 末は野の風 秋の風 一期一会の
別れかな」

坂本龍馬の作品から、「世の人は 我を何とも
笑えば笑え 我なす事は 我のみぞ知る」

明治時代は、「ざんぎり頭を叩いてみれば 文
明開化の音がする」

同じ頭でも、「頭剥げても 浮気はやまぬ や
まぬはずだよ先がない」

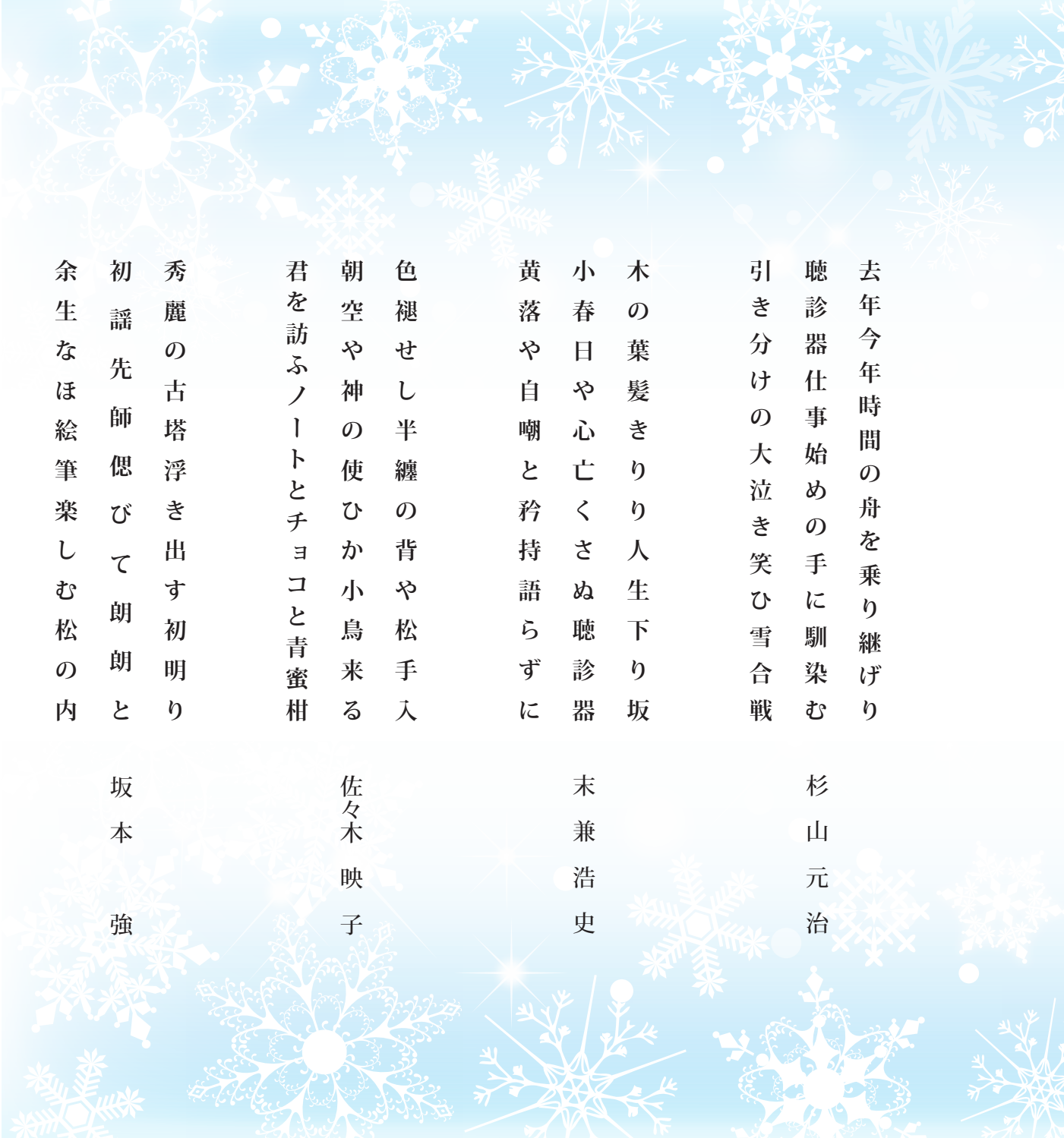
人生は、「くじも当たらず出世もなくて 今日
を生きてる運の良さ」

番外は、「どんなに診たての 良い医師よりも
私の愚痴聞く 医者がよい」

永く連れ添うと、「天高く馬 肥ゆる秋には
亭主元気で 留守が良い」



俳句ギャラリー
 ふしの句会（山口市医師会）



去年今年時間の舟を乗り継げり
 聴診器仕事始めの手に馴染む
 引き分けの大泣き笑ひ雪合戦

杉山元治

木の葉髪きりり人生下り坂
 小春日や心亡くさぬ聴診器
 黄落や自嘲と矜持語らずに

末兼浩史

色褪せし半纏の背や松手入
 朝空や神の使ひか小鳥来る
 君を訪ふノートとチョコと青蜜柑

佐々木映子

秀麗の古塔浮き出す初明り
 初謡先師偲びて朗朗と
 余生なほ絵筆楽しむ松の内

坂本強

俳句ギャラリー

ふしの句会（山口市医師会）

初霜や細き人影際立てり
幼な子と同じ爪色小春かな
そそくさと枝道に入り走り蕎麦
一位の実思ひやまざる恋に似て
平点前右手痺れて嗚呼小春
朝ぼらけ冬帝の陽を目に納め
長袖を羽織る夜空に天の川
新米や湯気に無数の光の子
廃駅の線路に遊ぶ秋桜

今村孝子

淵上泰敬

成重隆博

末は博士か大臣か

柳井 織田 哲至

コロナの第5波が収束している時に書いています。何故、急速に減少したのか科学的にまだ説明されていません。コロナウイルスの自壊、ワクチン接種率の向上のためでしょうか。ワクチンの開発、治療法を含めすべて海外発で、日本の研究はどうなっているのでしょうか。論文数は2006年に中国に抜かれ、ドイツにも差を広げられ4位です。さらに深刻なのは、将来ノーベル賞候補になり得るトップ10%に入る論文数も急速に低下し、過去最低の10位に後退しています。研究費が減少し、研究する人が少なくなったからでしょうか。

私が子供の頃には、勉強ができる子供に対する誉め言葉は「末は博士か大臣か」でしたが、今では死語になっています。この言葉の語源は何かから来ているのか分かりませんが、少なくとも日本の高度成長期頃まではよく使われていました。大学に入ると博士号を取らなくてはと思っていました。この言葉の植え付けが無縁ではありません。しかし、年々、博士号はどうでもよくなっていきます。現在は何の役にも立ちません。専門医の資格がある方が、保険診療にはメリットが、はるかに大きいです。

大学医局の階層社会が強固だった時代には、出世したければ、博士号が必須条件でした。大学院に行かなくても教授とか先輩の指導の下に学位論文を書くのが当たり前でした。ところが、2004年に新医師臨床研修制度が導入され、大学の附属病院にこだわることなく、臨床のより強い病院で研修を受けたいという風潮が広がり、今でも色濃く残っています。当然、大学の医局に属することもなく、医局の出世競争のために学位論文を書く必要もなくなり、論文数が減ったのです。大学の医

局は、『白い巨塔』をはじめ悪者扱いをされていましたが、論文作成＝研究を促す役割がありました。

コロナの時代、読書をする時間が増えたこともあり、医師で作家の人が、博士号を取得しているか、していないかを生まれ年と共に調べてみました。

博士号を取得している方は、森 鷗外 1862年、斎藤茂太 1916年、北 杜夫 1927年、手塚治虫 1928年、加賀乙彦 1929年、なだいなだ 1929年、渡辺淳一 1933年、海堂 尊 1961年（『コロナ黙示録』は図書館になかったので読んでいません。バチスタシリーズのその後を書いた『氷獄』を2年前に読んだのが最後です）です。

博士号を取得していない方は、帚木蓬生 1947年、南木佳士 1951年、久坂部 羊 1955年、南杏子 1961年、知念実希人 1978年、夏川草介 1978年（『臨床の砦』は、コロナの治療に携わる医師の大変さが、実感できる良い本でした）です。やはり、若い人ほど医学博士に興味が薄れているのが分かります。

1952年生まれの私は、1988年に博士号を頂きました。筆頭著者の論文数は29件（英語16件）で、共著を入れると論文数全体が122件（英語46件）でした。この当時、一緒に仕事をしていた仲間が、多くの論文を書いていたことが良く分かります。大学を離れ、年齢を重ねるにつれて論文数は減り、50歳を過ぎると全く書いていません。若い時は金が無い、中年になると時間が無い、老人になると元気が無くなります。老人の前進は死に向かい、若者は夢と希望に向かって前進です。若手研究者の支援を充実させるべきです。

直ぐに役立つ研究には予算が付き、そうでない基礎研究は予算面で軽んじられています。役に立

つか立たないかは、数年では分りません。予算を握っている大臣殿には、そういった視点が欠けていると感じます。2004年に国立大学法人化で予算を減少させた政策が、若手研究者の待遇を悪く、不安定にしました。国立大学教員のうち任期付き教員が2007年38.8%、2017年64.2%とポストにつけない人が多くなり、当然、優秀な学生は研究者を志望しません。また、目の前の利益につながる研究が重宝され、学問の裾野にあたる研究がどんどん枯渇していきます。物事は知れば知るほど分からないことが増えます。学問とか文化、研究は、一見無駄と思えるような肥沃な土壌に咲くものです。科学の良さは失敗できることです。1,000回やって1回でもうまくいったら大成功。失敗することが大事なのです。このことを大臣殿には認識して欲しいです。

ノーベル賞は、日本では1949年の湯川秀樹博士に始まり、2021年の真鍋淑郎博士まで、自然科学分野では25人が受賞されています。その研究成果は10～30年前に生み出されたものであることが多く、人類への貢献を見極めるには一定の時間が必要なことを再認識します。真鍋淑郎博士は、東京大学で博士号をとり、アメリカで研究した頭脳流出を代表する一人です。他にもノーベル賞候補の一人である藤島 昭博士も研究活動の場を中国に移すことが明らかになっています。mRNAをワクチンに使う発想は、1990年頃カリコ博士が開発し、2005年に論文にしています。ハンガリー生まれの彼女も研究費が無くて、1985年アメリカに移住しました。頭脳流出は、長期的にみると経済損失につながります。mRNAワクチンを輸入するのに一人40ドル、一億人で40億ドル、日本円で4,000億円以上の出費です。他にも、抗体カクテル療法、内服薬にもお金はかかります。コロナ以外の新しい治療薬も多く輸入しています。2019年の医薬品輸入金額は2兆7,500億円、輸出金額は4,400億円で一目瞭然です。

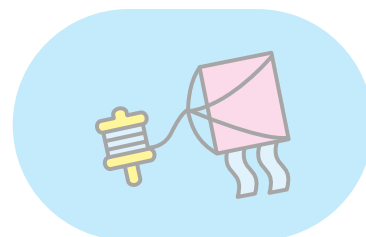
イグノーベル賞はがんばっています。日本人は15年連続受賞しています。座って自分の大腸内視鏡検査、股の間から後の方向に物を見ると実際より小さく見える、キスでアレルギー反応が減弱

する、夫のパンツに吹きかけることで浮気を発見できるスプレー、とか面白い発見が沢山あります。イグノーベル賞はノーベル賞のパロディで、否定を表す英語の接頭語Igがついています。また、ignoble（不名誉な、恥ずべき）のからみもあります。

コロナ関連のイグノーベル賞では、「政治家は、科学者や医師よりも生死に多大な影響を与えられる。」という事実を世界中に教えたとしてアメリカのトランプ大統領、ブラジルのボルソナロ大統領、ロシアのプーチン大統領、イギリスのジョンソン首相、インドのモディ首相等が、医学教育賞を2020年受賞しました。生死というところを自然科学研究に置き換えても十分うなずけます。研究者の待遇、研究費は大臣殿にかかっています。

「勉強する→考える→問題提起をする→実証する→解決する」というループを回すことが研究の基本です。世の中にも、自分の中にもそれぞれ、天才がいます。天才を殺す、秀才も凡人も共存しています。『天才を殺す凡人』（北野唯我 著）の一読をお薦めします。思いついたアイデアを良いか悪いかで判断する＝秀才の考え、周りがどう思うかと感情で判断する＝凡人の考えは捨て、創造性を発揮することを考えましょう。新しい視点、好奇心を抱き続ける、失敗を恐れない、過去にとらわれないことです。優秀な学生の考え方が変わり研究者を目指し、若手研究者が研究を続けられるように支援を充実して欲しいです。自然科学研究の衰退は、日本沈没につながります。

大臣の人数は、内閣総理大臣以外の国務大臣は14人以上とされているのに、20人と多いです。少し、お金を出しすぎかな。国を支えていくのに大臣だけでなく、博士も大事です。「末は博士か大臣か」の復活を願います。



高齢者のねむり

徳山 篠原 淳一

最近では高齢者の不眠、昼夜逆転などが大きな問題になっています。

まず、高齢者と若年者のねむりのちがいを説明してみます。

現在、日本人の平均睡眠時間は7時間20分とされていますが、高齢化してゆくにつれて睡眠時間は短くなり、同時に早寝早起きになってゆきます。原因はひとの体内時計の加齢による劣化によるものです。また、高齢者の場合は深い眠りが減るため、些細な物音や尿意で何回も目が覚めます。

睡眠時間も短くなり、60歳代で6時間ほどとなるので若い頃のような眠りは期待できません。また、「8時間睡眠」といった睡眠時間にこだわる必要はありません。眠りは人それぞれです。

また、高齢者の生活習慣で特徴的なのが「早寝・長寝・長い昼寝」で、これが日常診療で大きな問題となります。

夕食後に早々と布団に入ってしまうことがよく見られますが、午後6時から9時までは睡眠禁止帯とよばれる時間帯です。

この時間帯は昼間の興奮が残っており入眠に適さないとされ、睡眠薬の投与を控えたほうが良いとされます。

また、昼寝も午後3時までの20分間ほどが良いとされ一時間以上の昼寝は避けましょう。

高齢者は日中布団に入る傾向多くなるようですが、これでは夜間の眠りの質が落ちて熟睡できません。体調が悪い時を除いて、できるだけ日中は布団に入らないようにすることです。

また、昼間はできるだけ活動し生活にメリハリをつけることが重要になってきます。

認知症の場合、さらに眠りが浅くなり、1時間も続けて眠れないケースもあります。また、昼寝が多くなり昼夜逆転の傾向になります。

まず、昼間はできるだけ覚醒させることが重要でしょう。また、夕方以降になると帰宅要求で徘徊することがあります。これは「夕暮れ症候群」と呼ばれますが、睡眠・覚醒リズムの乱れによるものと考えられます。

高齢患者様の生活指導として

1. 室温などの寝室環境を整える
2. 就寝時間と起床時間を一定にする
3. 朝の日光浴をする
4. 規則正しい食生活をする
5. 決まった時間に運動する
6. 認知症治療薬の午後以降の服用を避ける
7. 痛みやかゆみの治療をする。など

これらは即効性はありませんが、根気強く続けることが重要になってきます。

以上、簡単ですが先生方のご参考になれば幸いです。

参考文献：

厚生労働省ホームページより抜粋
臨床睡眠学 日本臨床社など

俳句ギャラリー

徳医句会（徳山医師会）

紅葉且つ散る遠方へ行く友に

老父母の後悔聞くや遠野分

乳がんの癒えて婚礼蘭香る

村田周陽

神官にカメラ託すも七五三

小鳥来る石の鳥居に鑿の跡

冬近くなりたる絵馬に絆の字

藤村友雪

山口県立萩高等学校創立百五十周年記念式典に臨んで ～ 会津との交流を想う ～

萩市 山本 貞壽

創立の歴史からいうと、全国で二番目に古いとされる私の母校・萩高等学校の創立150周年記念式典が、新型コロナ禍のために丁度一年遅れて令和3年10月18日（月）に、萩市民館大ホールで開催されました。

萩市は辺陬の小都市であるから、萩高校卒業生の大半はまずは市外へ出てゆきます。私と子、孫の三代が同校で学べるのは、かなり少なくて誇りとしています。Social distance に留意してある会場であったが、卒業後64年になる挙式に臨めたのは、そのことだけで感激的でした。そして！、フレイルに自身留意しなければならない老生に、驚嘆・歓喜でした。

今まで炉辺談話や緑陰随筆に会津とのことを載せていただいています。繰り返しますが司馬遼太郎さんはこう指摘されていました。「とにかく、会津は長恨の土地であろう。太平洋戦争の敗戦ですら戊辰戦争の敗戦の深刻さにはおよばないというこの土地の怨みは、すでにそれを歴史のなかの過去として忘れてしまっているわれわれの無邪気さをはげしく叱咤する。」

われわれは「明治維新150年」とか云いますが、会津では「戊辰150年」となります。先日私に送られてきた小冊子にも、「敗者には 澱みし時か 萩『維新』 会津には『戊辰』の150年」の文が入っていました。最近になって発刊される、研究者による出版物の帯や宣伝文でも、「これほどのスピードで進められた近代国家樹立は、ほかに類をみない」（明治維新のこと）、「明治維新とは一口にいうと薩長の輩が仕掛けた陰険なる罠に征夷大將軍がかかってしまったということである…」と対立。長州と会津、両地は歴史からの後遺症、軋轢、こだわりが最大に残っているのです。

特に会津からは。

ですが！

「友情一時を越えて今」という作詩が、式典で当日戴いた記念誌、『学統を受けついで—創立150周年記念—』に確かに然と活字・写真にされているのです（写真1）。

会津高校・萩高校 合同演奏曲

友情一時を越えて今

作詞 会津高校合唱部

作曲 萩高校合唱部

編曲 山根昭正

今 ここに 共にいられる
幸せを 共に歌える 喜びを
この大空に響かせよう
歓喜の 春 躍動の 夏
哀愁の 秋 静謐の 冬
巡る季節をかけぬけて
信じ合えなかった日々
わかち合えなかった思い
すべてのこと（を）
今に託して 時を越え
たどり着いた夢のかけはし
今 ここから 明日を信じ
優しい未来に向かって
飛びたとう さあ

同時に発行されていた記念新聞にも、この合同演奏曲が発表された当時（2006年）の第19代校長であった山下 浩先生が、この作詩の写真を入れて記事にされていたのです。山下先生とは京都の金戒光明寺（京都守護職の本陣があった処）、会津高校に同行できたこともあり、両地・両校の

交流に大きな足跡を残されたと、再度の同行を願うのです。

さて、この「友情一時を越えて今」は、第 21 回国民文化祭・やまぐち 2006 の実行委員会副会長を務められた田村幸志郎さん（故人）のご尽力によるものでした（写真 2）。

田村さんには『會津残照』の著書があり、この年（2006 年・平成 18 年）に、「長州と会津の友好を考える会」を設立されました。

私には田村さんのような大仕事はできませんが、この「記念誌」「記念紙」を会津高校にお届けして、それを田村さんのご仏前に報告しなければ、と切に考えているのです。

ここ 10 数年、両地の交流を真摯に考えられる方々とも知己・交流が成り、民間では、いくつかの嬉しい成果があり、臨めたことを喜んでます。すでに故人となられた方も五指を越えました。私には大きな纏めはできませんが、お一人お一人のご仏前にお礼を申し上げることが私のこれからの責務となっているのです。

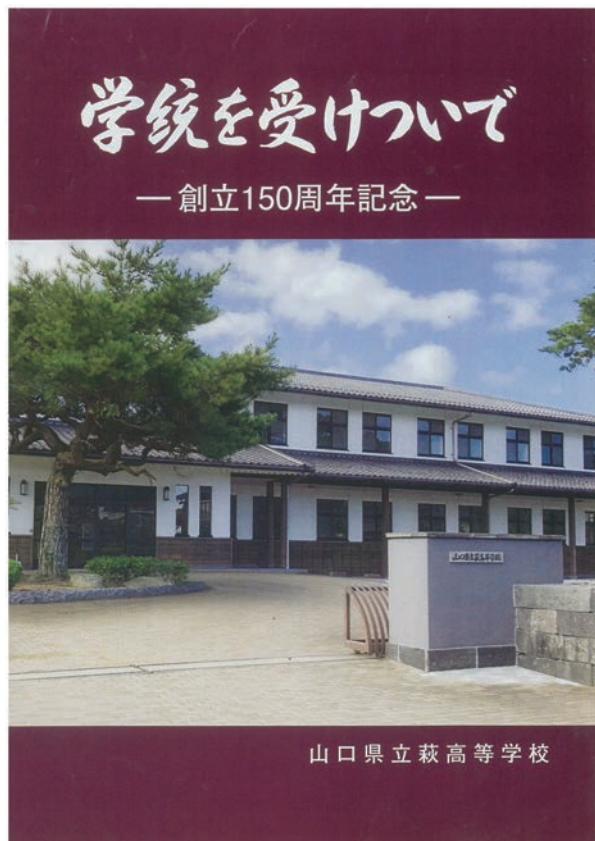


写真 1 令和 3 年 10 月 18 日（月）に開催された山口県立萩高等学校—創立 150 周年記念—の際に発行された記念誌
会津高校と萩高校の交流によりつくられた「友情一時を越えて今」が載せられている



写真 2 2006 年（平成 18 年）開催の「第 21 回国民文化祭・やまぐち 2006」のプログラム
田村幸志郎さんのご尽力によった「友情一時を越えて今」が記録されている（173 頁）

届いた一枚の葉書

徳山 吉次 興茲

ダイレクトメールの中に一枚のはがきがあった。友人の喪中のお知らせである。彼とは入学式の後の説明会で会った。彼は同じ高校の出身で2年後輩だが大学には同時入学だった。優秀な彼はストレートで入学し私は2年浪人したということになる。もともと童顔だった彼は詰襟の制服だったのでまさに高校生のままだった。

我々は専門学部に入る前の2年間、山口大学の文理学部の校舎で一般教養の授業を受けた。彼と私は防府駅から山口市までバスで通学したが、バス会社が違ったので会うことはなかった。医学部はほぼ選択科目が決まっており、彼とはほとんど同じ教室でたわいもない話をした。試験前には優秀な彼のノートをよく見せてもらっていた。

彼の小さな秘密を知ったのは夏休みに入る前だった。医学部の軽音楽部定期演奏会が宇部であるというので、友人からチケット販売をさせられた。気軽に言える同級生はすでに持っていたので、ふと思いついて別のバス路線で通っている英文学部の女子大生に声をかけた。彼女とは家が近くで小学生の頃からよく知っていて中学・高校も同じで、私の1学年下の子だった。

「軽音楽の生演奏を聴きにいかないか、チケットあげるけど」

「彼からもらってるよ、でも行くかどうか、分かんない」

はは～ん、そういうことか。彼とは同じバスだったのだ。

後日、彼に声をかけた。

「お前、彼女にチケット上げたんだってなあ」
「何で知ってる」少し慌てたようにいった。
「俺もあげようと思って声をかけたからだ」

そして3人のちょっと不思議な関係が始まった。彼女が1学年上の大学2年生、私たちは1年生。でも年齢は私が1番上で次は彼女で彼が1番下になる。

それから3人で喫茶店や食事・映画・美術館・卓球・ボーリングなど時間が合えばいつも一緒だった。パチンコにも行ってみた。よく通ったビリヤードのお店のおばさんから『いつもさわやかで楽しそうでいいですね』とひやかされた。

年を越したある日、3年生になった彼女が言った。

「最近、ゼミの論文が進まない」

「どんなテーマ？」

「20世紀イギリスの女性英文学者 アイリス・マードックについて」

「誰それ」私は思わず口をはさんだ。

「何冊もベストセラーになってる作家だよ」
彼が答えた。

「えっ、どうして知ってるの？」

「受験勉強でちょっと出てきたから」英語が得意な彼は照れたように言った。

「ふ～ん、じゃ今度手伝ってもらおうかな」彼女はにやっと笑って言った。

「できることなら、何でも」かすかな笑みを浮かべて彼は答えた。

そんな彼らがなんだか似合いのカップルに見えて少し羨ましかった。

そのあとで、最近の盛り上がっている歌の話になった。

「カオルちゃん遅くなってごめんね、って歌詞知ってる？」

「全然知らない」2人同時に言った。

「じゃあ、恋の季節は？ 亜麻色の髪の乙女？、ザ・ピーナッツは？ タイガーズは？」

これは彼だけが知らなかった。

聞けば彼の家では受験勉強のためにテレビはほとんど観せてもらえなかったそうだ。

そんな関係が1年間続いた。

「なあ、彼が自分のことを好きなことは気づいているだろう？」

「うん、何回か2人で会った。優しいし頭いいし、いろんなことを知っていてわからない疑問にもすぐ答えてくれる。人間的にも誠実でいい人だけど、まじめすぎて緊張する。もちろん嫌いじゃないよ、とってもいい友達。この前マードックのことも調べてくれていて、びっくりしたし、嬉しかった。でも」

「これ以上踏み込めないのかな」

「うーん、吉次君よりは格好良くてイケメン

なんだけどなあ、はは」

「はい、先輩の言う通りです」

「今は想いに応えてあげられそうにないな。なんだか落ち着かない。ゆるーいふわふわ感がないの。ゆったりできない。私、年下はちょっと苦手なんだ、こっちが甘えたいのかな、3人の方が気楽でいいな」

「そのうち彼の緊張も取れて時間がたてばだんだん違ってくるかもな、真剣に考えなくてもいいんじゃない。自然の流れで」

「うん」

彼女は4年生になった、その年我々は宇部市の専門課程へと進級した。

そして、何年か後に彼はアメリカに留学し世界で認められる論文を書くことになる。

彼女とは50年以上会っていない、彼の訃報は知らないだろう。聞いたら彼女は何をおもうだろうか。

